農林水産省のミッション

～食を中心とした限りないフィールド～

農林水産省　九州農政局

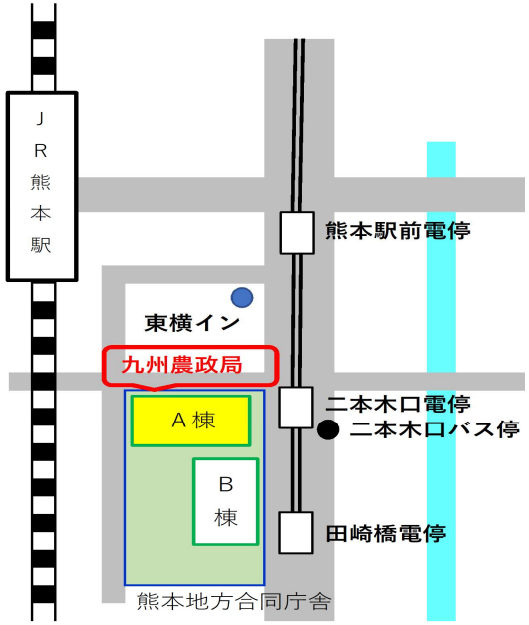
所在

熊本市西区春日２丁目10-1
熊本地方合同庁舎Ａ棟

https://www.maff.go.jp/kyusyu/

スマートフォンからでも！

こちらから　→

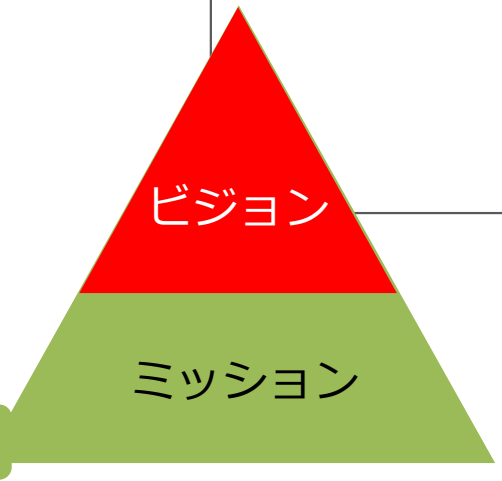


農林水産省は何のために存在するのか

MAFF

- 農林水産省ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
生命（いのち）を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。



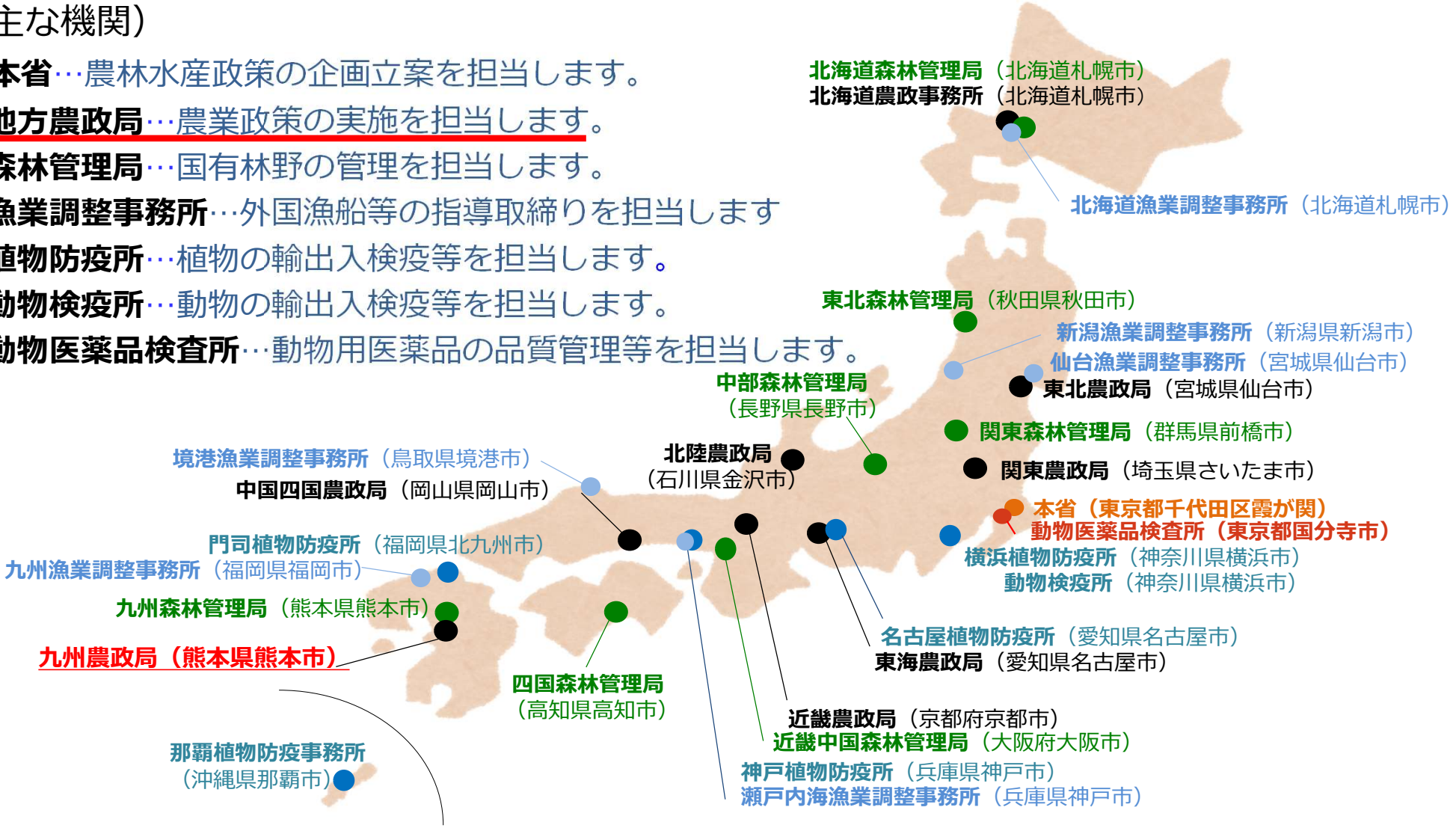
農林水産省の組織

MAFF

農林水産省は、本省（約５千人）と全国の各地方ブロック機関（約１万５千人）で構成され、総定員数は約２万人です。

（主な機関）

- **本省**…農林水産政策の企画立案を担当します。
- **地方農政局**…農業政策の実施を担当します。
- **森林管理局**…国有林野の管理を担当します。
- **漁業調整事務所**…外国漁船等の指導取締りを担当します
- **植物防疫所**…植物の輸出入検疫等を担当します。
- **動物検疫所**…動物の輸出入検疫等を担当します。
- **動物医薬品検査所**…動物用医薬品の品質管理等を担当します。



九州農政局の組織　R7.2　現在

MAFF

九州農政局は、本局の約590人と各県拠点や事業所の約610人とで構成され、総定員数は約1200人です。
（ほかに再任用職員：260人　非常勤職員：110人）

- 九州農政局
  - 地方参事官
  - 企画調整室
  - 総務部
  - 消費・安全部
  - 生産部
  - 経営・事業支援部
  - 農村振興部
  - 統計部
- 福岡県拠点
- 佐賀県拠点
- 長崎県拠点
- 熊本県拠点
- 大分県拠点
- 宮崎県拠点
- 鹿児島県拠点
- 鹿屋駐在所

① 北部九州土地改良調査管理事務所
② 南部九州土地改良調査管理事務所
③ 土地改良技術事務所
④ 八代平野農業水利事業所
⑤ 宮崎中部農業水利事業所
⑥ 一ツ瀬川農業水利事業所
⑦ 沖永良部農業水利事業所
⑧ 喜界島農業水利事業所
⑨ 宇城農地整備事業所
⑩ 駅館川農地整備事業所
⑪ 筑後川下流右岸農地防災事業所
⑫ 玉名横島海岸保全事業所
⑬ 八代海岸保全事業所
⑭ 西国東海岸保全事業所

本局	県拠点･駐在所	国営事業（務）所
（約590人）	（約260人）	（約350人）

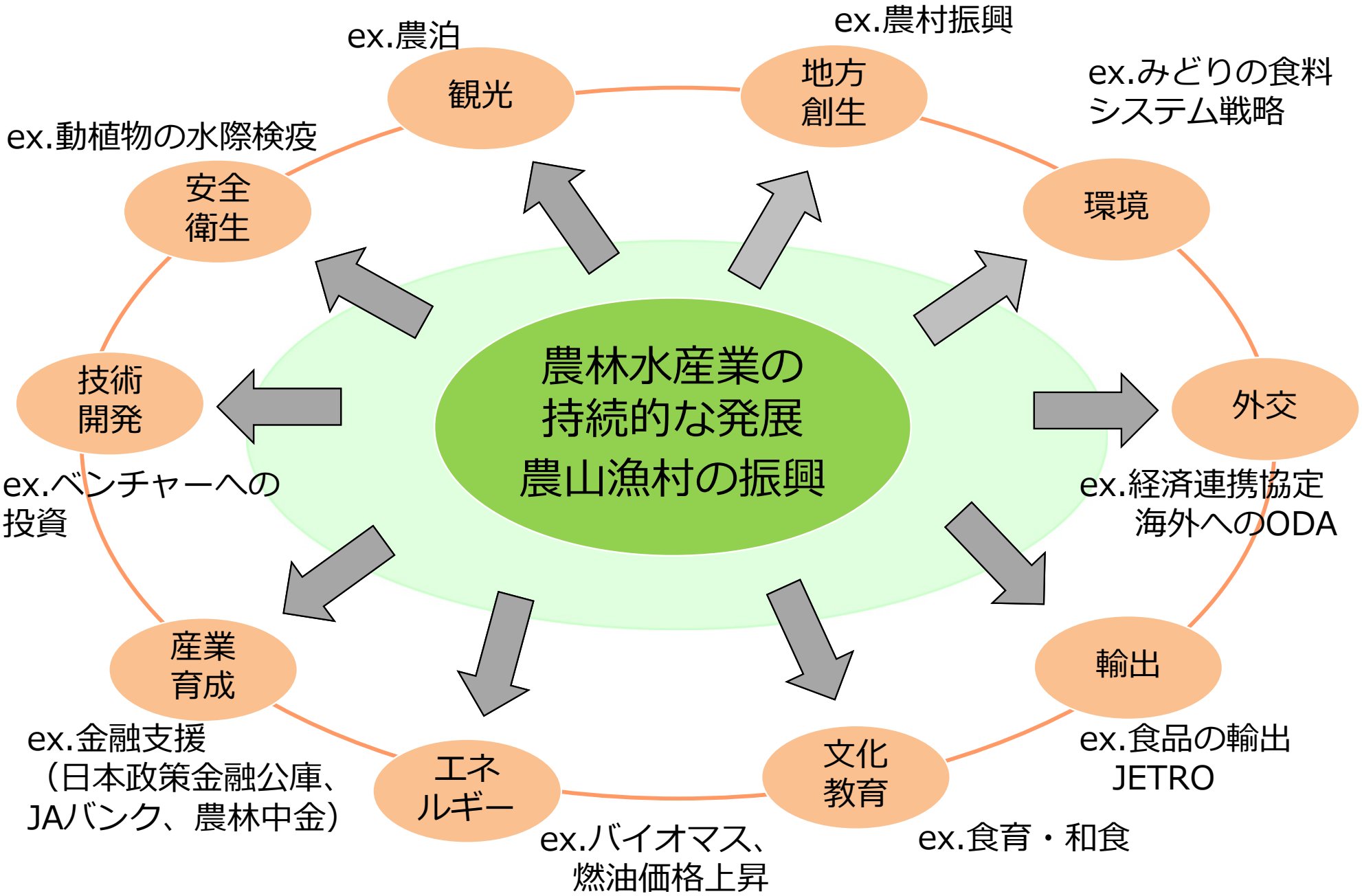
九州農政局の業務

MAFF

部（室）等	業務内容
企画調整室	みどりの食料システム戦略の推進、各種施策に関する企画・総合調整、広報・報道活動、農畜産物等の災害対策、農畜産物・飲食料品等の物価対策、食料自給率の向上、食料安全保障の強化、農政全般に関する情報発信・収集及び相談対応
総務部	職員の採用活動、人事管理、給与、福利厚生、 契約事務、物品の購入・管理、国有財産の管理
消費・安全部	食品の安全性に関する情報等の収集・提供、食育の推進、食品表示の適正化、トレーサビリティ、 家畜伝染病の予防、農作物の病害虫のまん延防止
生産部	米・麦・豆類・野菜・果実など主要農作物及び畜産物の生産・流通の改善等に関する指導、米の需給調整、環境保全型農業の推進、経営所得安定対策、スマート農業、生産資材（肥料、燃料、飼料）高騰関連

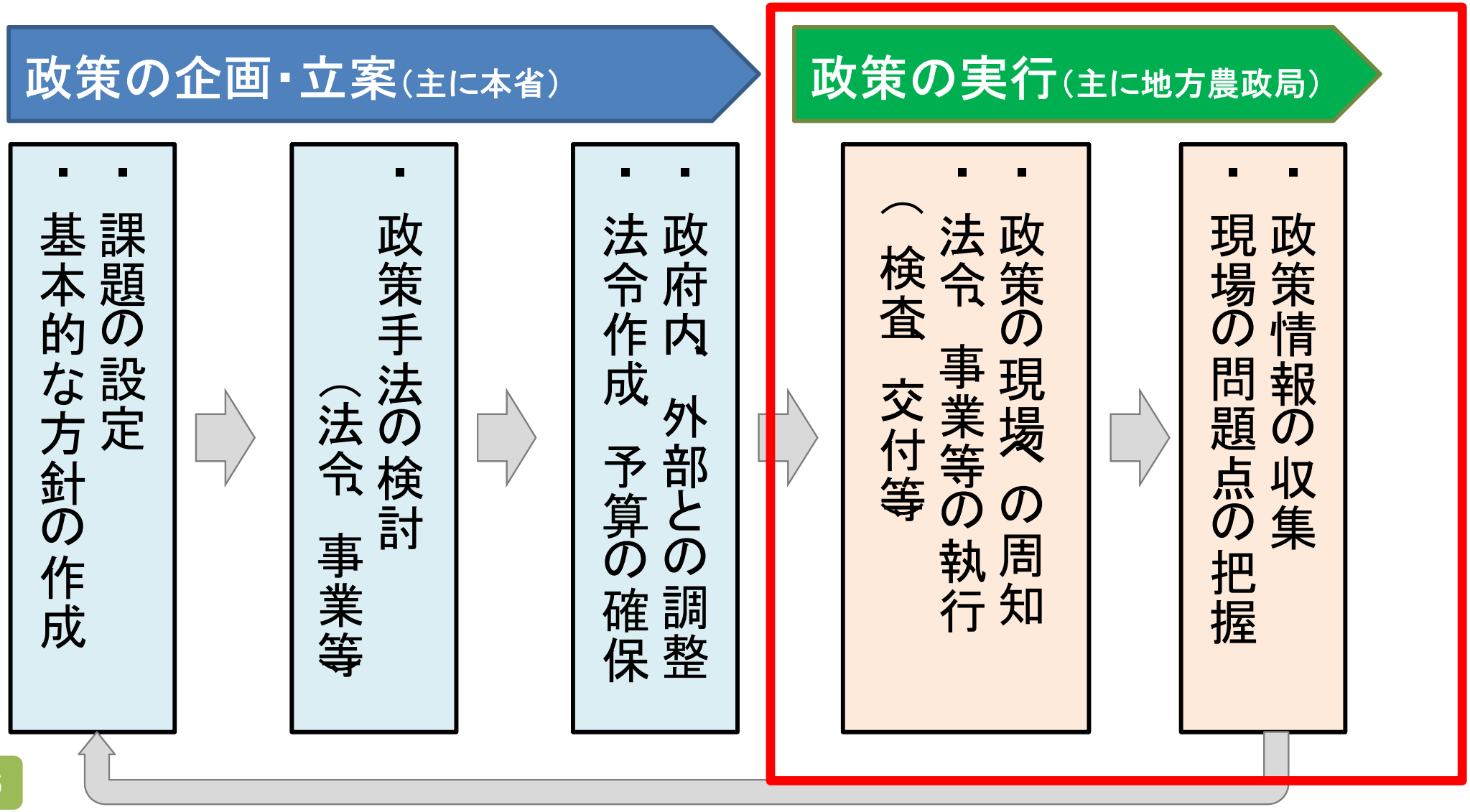
部（室）等	業務内容
経営・事業支援部	担い手の育成・確保、新規就農の促進や女性・高齢者の活動促進、農林水産物・食品の輸出促進、地理的表示（ＧＩ）・知的財産の保護・活用、食文化の保護・継承、HACCPの普及推進、再生可能エネルギーの利活用、農地政策の推進、農地集積・集約化
農村振興部	農山漁村の活性化対策（農泊、農福連携、６次産業化、地産地消、情報通信）、中山間地域等の振興、棚田の振興、鳥獣害対策、土地改良区の指導・監督、農地転用許可、農業農村整備事業の調査・計画・実施
統計部	農林漁業経営体の経営、農畜産物の生産費、農林漁業センサス、農産物被害統計、耕地面積や農林水産物の生産・流通・加工・消費等の各種統計データの作成・提供

1次産業を核とした多様なフィールドと、豊富なツール



農林水産行政の流れ

「食」や「農」を取り巻く様々な課題をどうすれば解消できるのか？
農業の成長産業化のため、どのような仕掛けが必要か？



みどりの食料システム戦略

MAFF

みどりの食料システム戦略（概要）
～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

現状と今後の課題

○生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
○温暖化、大規模自然災害
○コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
○SDGsや環境への対応強化
○国際ルールメーキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

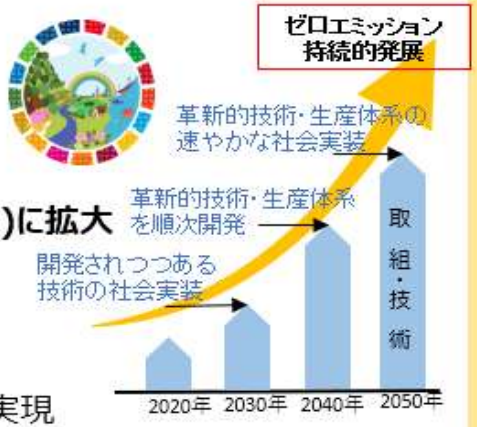
農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業の**CO2ゼロエミッション化**の実現
- 低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により**化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減**
- **輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減**
- 耕地面積に占める**有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大**
- 2030年までに**食品製造業の労働生産性を最低３割向上**
- 2030年までに食品企業における**持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す**
- **エリートツリー**等を林業用苗木の**9割以上に拡大**
- **ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%**を実現



戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、
今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）

※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。
2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。

※ 革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。
地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

経済 持続的な産業基盤の構築
・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
・国産品の評価向上による輸出拡大
・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会 国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大
・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
・地域資源を活かした地域経済循環
・多様な人々が共生する地域社会

環境 将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承
・環境と調和した食料・農林水産業
・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

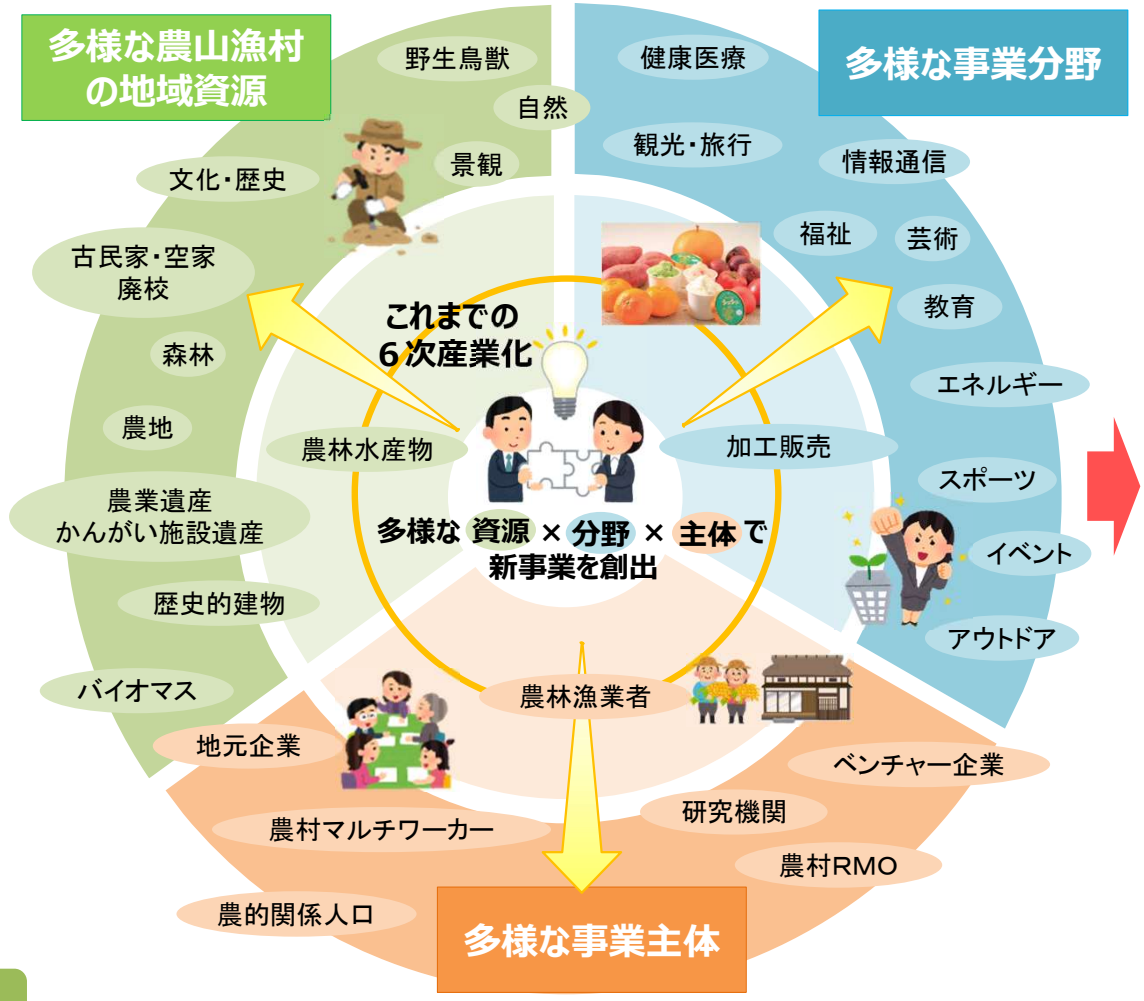
アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメーキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

農山漁村発イノベーションによる雇用・所得の創出

○ 「**農山漁村発イノベーション**」とは、従来の６次産業化を発展させて、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の**多様な地域資源も活用**し、農林漁業者はもちろん、地元の企業なども含めた**多様な主体の参画によって新事業や付加価値の創出を図る取組**です。

農山漁村発イノベーション

○ 農山漁村のあらゆる地域資源をフル活用した取組を支援
○ 他産業起点の取組など他分野との連携を一層促進



地域資源と事業分野、事業主体を組み合わせ、新事業や付加価値を創出

＜例１＞
農産物、景観 × 加工販売、観光･旅行 × 農林漁業者、地元企業
＝ **竹林景観を活かした映画のロケ地や観光商品化**

＜例２＞
森林 × スポーツ × ベンチャー企業
＝ **森林サバイバルゲーム**

＜例３＞
農産物 × 加工販売、観光旅行、教育 × 農林漁業者、地元企業
＝ **農業交流拠点を核とした６次産業化、食育体験**

＜例４＞
森林 × 観光・旅行、健康医療 × 農林漁業者、地元企業
＝ **森林セラピー**

＜例５＞
農業遺産、文化･歴史 × 加工販売、観光･旅行 × 協議会（農林漁業者、地元企業等）
＝ **農業遺産を核とした６次産業化、観光振興**

農業農村整備事業の概要

MAFF

○良好な営農条件を備えた農地や農業水利施設は、我が国の農業生産を支える重要なインフラ。
○このため、農林水産省では土地改良事業により、農地・農業水利施設の整備を実施。

	事業内容（規模により国営、県営、市町村・土地改良区営）	課題
1　農地整備事業	○　農地の大区画化・汎用化、畑地かんがい施設の整備 	○狭小・不整形の農地は作業効率が悪く、担い手農家も敬遠 ⇒　農地の大区画化や汎用化・畑地化等を推進
2　農業水利事業	○　農業水利施設（ダム、堰、水路、機場等）の整備 	○　基幹的水利施設※の３割が耐用年数を超過 ⇒　点検・補修等による戦略的な保全管理の推進 ※受益面積100ha以上の農業水利施設
3　農地防災事業	○　農地の湛水防止、ため池の改修、地すべり対策等 	○　集中豪雨の多発化 ○　全国に約16万箇所あるため池の約７割が江戸時代以前に築造されており、豪雨や地震に対して脆弱 ⇒　ため池等の防災・減災対策を推進
4　農村整備事業	○　農業集落排水施設、農道、情報通信環境等の整備 	○　農村インフラは老朽化が進行、自然災害に脆弱 ○　再編・強靭化や管理の省力化が必要 ⇒　「デジタル田園都市国家構想」も踏まえつつ、集落排水施設、農道、情報通信環境等の整備を推進

農林水産省で働いている人ってどんな人？

MAFF

	事務系	技術系（技官）
総合職	●院卒者試験 「行政」 「法務」 ●大卒程度試験 「政治・国際・人文」 「法律」 「経済」 「教養」	●院卒者・大卒程度試験 「農業科学・水産」 「農業農村工学」 「森林・自然環境」 「化学・生物・薬学」 「工学」、「デジタル」 「数理科学・物理・地球科学」 「人間科学」 ●獣医系技術職（準ずる試験）
一般職	●大卒程度試験 「行政」	●大卒程度試験 「農学」、「化学」、「物理」 「農業農村工学」、「機械」 「デジタル・電気・電子」 「林学」、「土木」、「建築」 ●畜産系技術職（準ずる試験） ●水産系技術職（準ずる試験）

国家公務員一般職試験(技術系)と農林水産省の採用区分

採用区分 / 試験区分	農業技術系 （本省一括採用） ○農業・食料全般 ○スマート農業 ○食品安全	農業土木・調査計画系 （農政局採用） ○農業農村整備 ○農村地域づくり	畜産系 （本省採用） ○畜産振興 ○畜舎等の建築	統計部IT系 （本省採用） ○情報セキュリティ、デジタル化 ○統計	水産工学系 （水産庁採用） ○水産全般 ○水産技術	林野庁 （林野庁採用） ○森林・林業全般
農学※	○	○	※別途畜産系技術職（一般職相当）有り	○		
化学※	○	○		○		
物理	○	○				
デジタル・電気・電子	○	○		○	○	
機械	○	○			○	
農業農村工学		○				
土木		○			○	○
林学※						○
建築			○		○	○

※ 「農学」「化学」「林学」は、上記のほか植物防疫系(植物防疫所採用)の対象

公務員における職種の違い

MAFF

□ ▼総合職と一般職の違い

総合職　・・・　政策の企画立案業務

一般職　・・・　政策の企画立案業務、行政の運営管理業務

□ ▼地方公務員と国家公務員の違い

地方公務員　・・・　地域密着型の仕事

国家公務員　・・・　日本のあり方を考えるスケールの大きい仕事

※農政局等の地方組織での仕事は、生産や消費の現場により近い国の機関のため現場の声を聞きながら、地域の実情にあった各種施策を実行する仕事

□ ▼他省庁と農林水産省

どの省庁も、国民のため、国民に不可欠な行政サービスを提供

農林水産省は、豊かな「食」と「環境」を未来へつなぐ使命を果たす。

九州農政局採用後のキャリアパス　【事務系】

MAFF

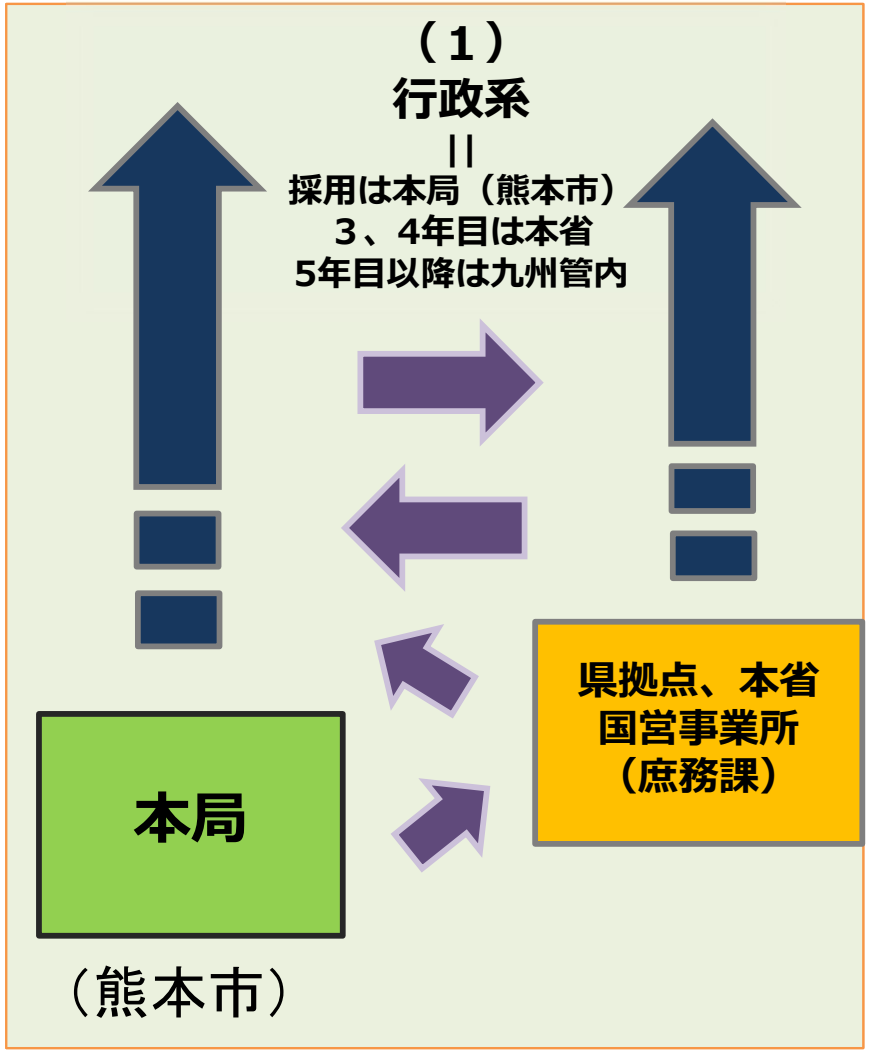
▼　採用後は、概ね２～３年毎に１度は異動することとなります。
（１）行政系_様々なポストを経験しながら、自分にあった分野のスペシャリストになってもらいます。
（２）農村振興行政系_用地・補償業務のスペシャリストになってもらいます。
▼　キャリアプランの中で、農林水産本省での業務も経験可能です。

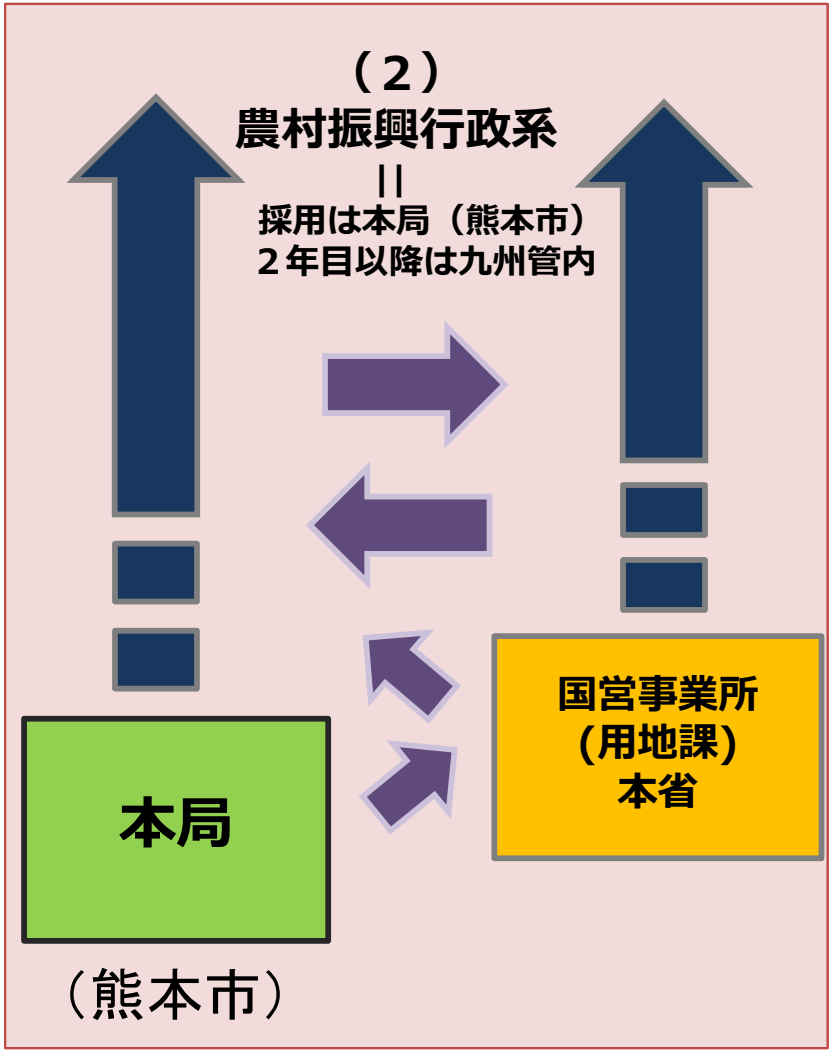
主に地方農政局の管理職

課 長 補 佐・専門官

係　長

係　員





（1）

行政系

●業務内容●

・みどりの食料システム戦略の推進
・各種施策に関する企画
・消費者行政、食育の推進
・内部管理（人事、会計等）
・担い手確保対策、
・農林水産物食品の輸出促進
・食料安全保障の強化
・バイオマス・再生可能
　エネルギー利活用促進等の事務
・農地政策の推進、新規就農対策、
　経営所得安定対策の事務

●主な勤務先●

・**九州農政局本局**
・同局管内の各県拠点、国営事業所
・本省（東京霞ヶ関）

（2）

農村振興行政系

●業務内容●

・国営土地改良事業等に係る用地
　補償及び施設の管理等の事務

●主な勤務先●

・**九州農政局管内の国営事業所**
・九州農政局本局
・本省（東京霞ヶ関）

職員の働き方

○　職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

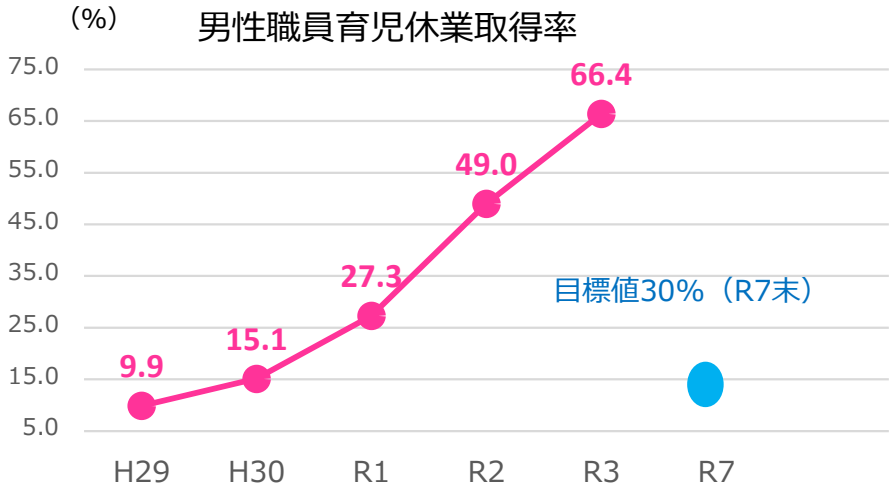
本省（常勤職員）	25.0時間
地方機関（常勤職員）	6.5時間
合　計	11.1時間

※令和３年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。

出典：農林水産省HP

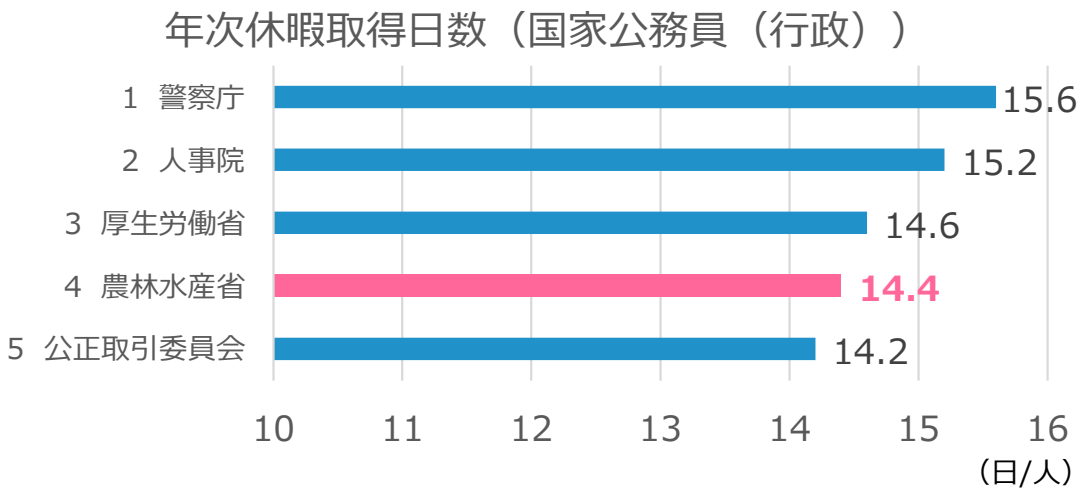
○　育児休業取得率

女性職員の育児休業取得率は100%。
男性職員の取得割合も増加。



○　休暇取得

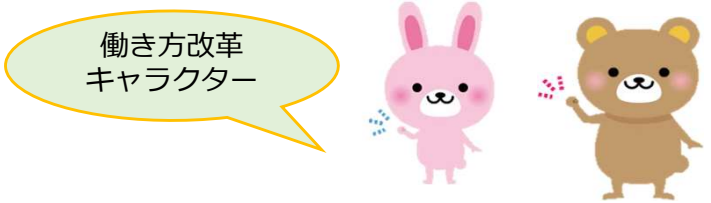
一人当たりの年次休暇取得日数は、全省庁で４番目



出典：内閣府男女共同参画局　女性活躍推進法「見える化」サイト

○　多様な働き方～テレワーク等～

・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
・令和２年度実績では、テレワークの実施回数が多い府省（本省）で農林水産省は全省庁で３番目（国家公務員テレワーク取組状況等調査より）。



九州農政局の若手職員の活動①

MAFF

「九州農政局チャレンジチーム」

R5年度より始まった活動。若手職員により構成されるチームで、年度ごとに取り組むテーマを設定し、自発的意志をもって課題解決に挑戦する活動を行う。活動は、勤務時間の一部を使って現地取材等も可能。

※九州農政局HPより

現在、１９名の職員が参加（うち１７名が入省1、2年目の職員）

九州農政局の若手職員の活動①

R6年度の取り組み①

学生参加型プロジェクト「AGREAL（アグリアル）」

- 「AGREAL（アグリアル）」とは、普段触れることが少ない農業の「リアル」を知る機会を、次世代を担う学生と一緒につくりあげる学生参加型プロジェクト。

第1弾
れんこんの収穫・加工・消費体験 →

収穫

加工

意見交換

第２弾　柑橘の選果場見学
第３弾　若手農業者団体との交流へと続く…

R6年度の取り組み②

環境に配慮した農業に関する情報発信及びガイドブックの更新・周知

- みどりの食料システム戦略に関する活動をテーマとしたR５年度の活動を踏襲しつつ、取材範囲を管内全域に拡大する。Instagramで取材内容を発信するとともに、ガイドブックを更新し局内各部署等連携するなどして情報を発信する。

SNSやパンフレットでの発信 →

MAFF_KYUSHU

九州農政局の若手職員の活動②

「BAZZ　MAFF（宮崎のヒデちゃん）」

農林水産省**職員自らが、YouTuber**となり担当業務にとらわれず、**スキルや個性**を活かして、農林水産省や日本の農林水産業の魅力を発信するプロジェクト。省内公募で希望した職員が参加しています。

九州農政局のBUZZ MAFF

宮崎のヒデちゃん

現在、５名の職員で活動中

※九州農政局HPより

研修制度（現場体験・能力向上）

県拠点研修

本局に在籍する若手職員のうち、本研修の受講が必要と認められる職員を九州農政局管内に所在する各県拠点へ５日間派遣し、現場を体験することで農林水産省職員に必要な現場感覚を養う研修です。

農村現地研修

本局及び熊本県拠点に在籍する採用２年目の職員等を熊本県内の農家のもとに、２週間程度派遣し、農家の実情を経験する研修です。

先輩へインタビュー！①

MAFF

◇先輩紹介◇

田呂丸　莉奈さん　企画調整室　（食料安全保障係）

食品価格の調査・分析や事業者へのヒアリングなど食料安全保障に係る業務を行っています。また、「ニッポンフードシフト」というZ世代に向けたイベント企画や情報発信の取り組みも担当しています！

Q1.九州農政局を選んだきっかけは？

食は人にとって身近な存在であり、食育を受けてきた経験からも、これからの日本の食を守り発展させていく業務に魅力をもち、農政局を選びました。また、インターンシップや業務説明会、面接を通して職員の方の人柄に惹かれました。

Q2.九州農政局ってどんな感じ？

皆さんとても良い方で、分からないところを聞くとすぐに教えてくださり、若者の話をしっかりきいてくだいます。また、一年目から休みも取りやすく、仕事とプライベートが両立しやすいです。

Q3.大学時代にやっていて良かったことは？

幅広く様々な経験をしたことが、とてもよかったです。授業も大事ですが、大学時代にしかできない活動を通して、自分の向き不向きを考えることで納得いく就職先を選べると思います。

Q4.公務員試験に向けてどのような準備をした？

国家一般試験に限らず、様々な過去問を何度も繰り返すことで知識量を増やしました。さらに、官民両方の業務説明会に参加することで、公務員の業界研究にも努めました。

Q5.在校生へのメッセージ！！

就職先の選択肢が多く、迷うこともあると思いますがいろんな人の話を聞いて、いろんなことに挑戦して、就職先を決めてほしいです。農政局は、様々な業務が経験でき、若者も挑戦する場がある職場です！就職先の一つに、農政局も考えてもらえると嬉しいです！

先輩へインタビュー！②

■江頭　遼平
■熊本大学　法学部（令和３年卒）
■令和３年度採用
■農村振興部農村計画課農地転用係
■佐賀県　出身

Q1.国家公務員を志したきっかけは？

祖父母が農家だったこともあり、昔から農業に関わる仕事がしたいなと思っていました。ただ、親は農業をしていなかったこともあり、生産者として働く姿がイメージできなかったので事務職で関わっていこうと考えました。
そこで、JAや県庁、市役所も考えましたが、〇〇県のために働きたい、というよりかは、日本の農業のために働きたいという思いがあったので、最終的に農林水産省を希望しました。

Q2.九州農政局ってどんな感じ？

上司はもちろん、他の課の人にも相談しやすいです。時々、自分の担当する業務の範囲を超えた案件があるので、九州農政局の空気は非常にありがたいです。あと、どこの農政局もそうかもしれませんが、グルメな人が多いです。

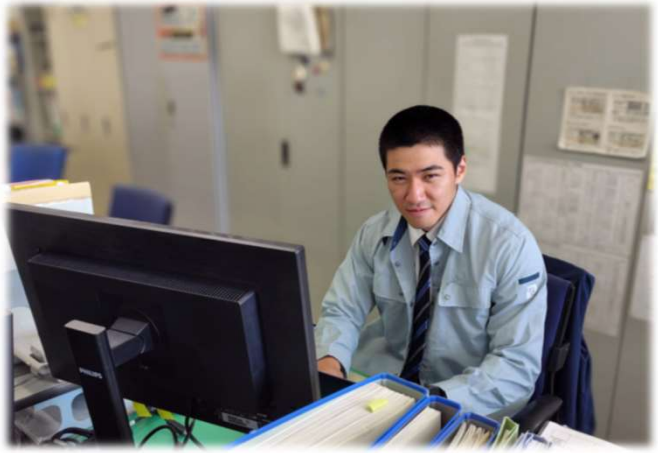
Q3.現在の業務内容とその魅力を教えてください！

農地に家を建てたり、工場を建てる時に必要な農地転用許可事務を担当しています。優良農地保全と地域経済発展のバランスを考えて県と協議するのが主な仕事です。自分が関わった農地が変わっていくのは色々と感慨深いものがあります。農地転用は案外身近で、皆さんがよく行かれる施設の敷地が実は、、、なんてこともあります。

先輩へインタビュー！②

Q４.職場ではどんな人が求められていると思いますか？

何か特別なスキルが必要という訳ではなく、「報・連・相」ができるコミュニケーション力が一番大切だと思います。職場内で様々な職員とコミュニケーションを取りながら、業務をしていく中で、必要なスキルが身についたり、磨かれていくのかなと思っていますが、自分もまだまだ勉強中です。



Q５.九州農政局のワークライフバランスはどんな感じ？

休みは取りやすいです。むしろ、あんまり取らないでいると「取らないの？」と聞かれます。時間指定で休むこともできるので、ちょっとした役所の手続きもしやすいです。

また、基本的に定時で帰れるので、最初のイメージより自分の時間がとりやすいです。何なら、同期同士仲がいいので、仕事終わりに時々飲み会をしています。

Q６.受験対策や学生へのアドバイスをお願いします！

面接についてですが、面接官は、何も皆さんの知識や一挙手一投足を見て、採点しているわけではないと思います。要は、その人と一緒に仕事がしたいと思う人柄かどうかが重要で、実際、私は官庁訪問の時、入室時にノックを２回してしまい、失敗したと思いましたが大丈夫でした。少しのミスに気落ちせずに、自然な自分をアピールしていただければと思います。

農林水産省への就職のご案内（一般職試験（大卒程度）行政区分）

MAFF

一般職試験（大卒程度）行政区分を合格された方が農林水産省への就職を志望される場合は、以下の機関で採用の機会があります。

機関名	担当業務	採用実績（R5）
農林水産省（本省）	農林水産省の本省（大臣官房～農林水産技術会議事務局）に配属され、農林水産政策の企画・立案等を担当します。	45名
農林水産省統計部	統計部に配属され、施策の企画・立案に不可欠な農林水産統計の作成・提供・整備等を担当します。	（技術系と合計）15名
農林水産省デジタル戦略グループ	農林水産本省（主にデジタル戦略グループ）に配属され、農林水産業・食料関連産業のDX実現に向けた政策の企画・立案等を担当します。	（技術系と合計）4名
地方農政局、北海道農政事務所	全国の地方支分部局で、本局又は管内の県域拠点・事業所等に配属され、主に本省で企画された政策の実施等を担当します。	（全国合計）116名
植物防疫所	全国の植物防疫所で、植物の輸出入検疫業務等を円滑に実施するための総務関係業務を担当します。	1名
動物検疫所	全国の動物検疫所で、動物の輸出入検疫業務等を円滑に実施するための総務関係業務を担当します。	2名
林野庁	林野庁本庁及び全国の森林管理局・署に配属され、国有林野の管理・経営等を担当します。	17名
水産庁	水産庁本庁及び漁業調整事務所に配属され、水産政策の企画立案及び実施等を担当します。	10名

希望する機関のＨＰで官庁訪問の案内等をチェックしましょう！